

小学校第4学年 国語科 学習指導案

期日 平成21年10月5日(月) 第5校時
場所 玉名市立玉名町小学校 4年2組教室
指導者 教諭 友田 名菜子

1 単元名

場面をくらべて読もう 「一つの花」 (光村図書四年下)

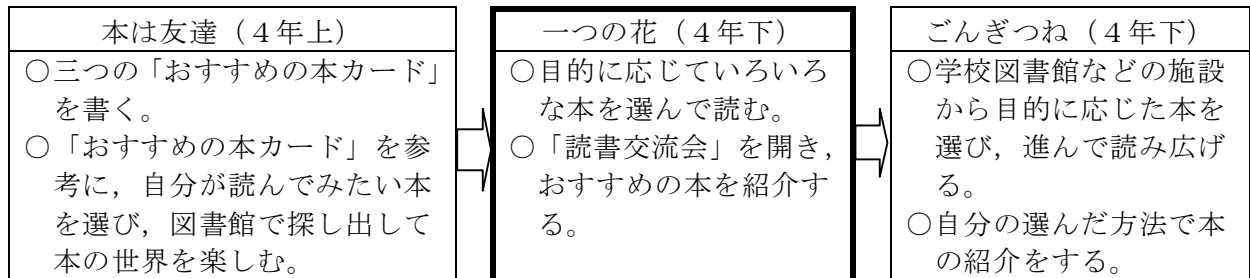
2 単元について

(1) 単元の考察

本単元は、小学校指導要領の目標「C 読むこと(3)」を受け、内容ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」をねらいとしている。本単元では、教材文の読解指導の後に、教材文に関連した読書指導を位置付け、読書力の育成にも重点を置いた。この読書指導では、内容カ「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」を重点目標として取り上げる。

本教材「一つの花」は、戦争という過酷な状況に置かれた人々が、家族への愛情を見失うことなく懸命に生きようとする姿から、人間の強さ、美しさ、平和と命の尊さ、戦争の残虐さが描かれている。そこで、読書指導においては、「一つの花」に関連した「戦争」「家族愛」「命」をテーマにした作品や作者である今西祐行の作品を読み、本の紹介や感想を交流する活動を通して、読みたい内容や書き手を絞って本を選び、読み広げる方法を学ばせ、幅広く読書をしようとする態度を育てたい。

(2) 本単元の読書指導に関する系統は次のとおりである。



(3) 本単元に係る児童の実態は次のとおりである。(6月18日調査 37名)

○本学級は、男子19名、女子18名、計37名である。4月から7月までの一人あたりの図書貸出冊数は約30冊で、学級全体としては読書意欲の高い学級と言える。しかしながら、「読書があまり好きではない、きらい」と答える子が8名いることや、貸出冊数が10冊未満の児童が6名いることから、その読書意欲には個人差が大きいことが分かる。4月から7月までに読んだ本の冊数は、次のとおりである。

- ①10冊未満 6名 ②10～20冊未満 7名 ③20～30冊未満 3名
④30～40冊未満 10名 ⑤40～50冊未満 4名 ⑥50冊以上 7名

○読書のジャンルにおいては、「物語」が特に多い。「伝記」や「推理小説」「歴史」「自然や科学の本」などを好んで読む児童も多い方であるが、「伝記を好む児童は伝記ばかりを読む」というように一つのジャンルばかりを読み続け、興味のないジャンルの本はあまり読まないという傾向がある。本の選び方においては、「題名」で選ぶ児童が一番多いが、「何となく」と答えた児童もほぼ同数いることから、目的を持って読書を進めている児童は少ない。

○読書後に、進んで読書郵便を出したり紹介カードを書いたりすると答えた児童24名に対し、書かないと答えた児童は13名であった。その理由としては、「何を書いていいのか分からない」「書き方が分からない」を挙げている児童が多かった。そこで、読書記録に残す具体的な事柄や、紹介するときの基本的な文型を示しながら指導したことで、書ける児童が増えてきている。

○粗筋をつかみ、さらに主題に迫る場面を選び、感想まで書ける児童は31名であった。

(4) 読書指導にあたっては、次の点に留意する。

【読書への関心・意欲・態度を育てる視点】

○読み広げるテーマを自分で決定できるように、教師がブックトークを行い、読書への興味・関心を高めさせる。

○予想されるテーマや今西祐行の作品を準備し、読書環境を整えておく。

○今後の読書活動への意欲を高めるために、教師の読書体験を紹介する。

【本や文章を選ぶ力を育てる視点】

○「一つの花」を学習して、感じたこと、考えたことを基にウェビングを行い、本を読み広げるテーマに見通しを持たせる。

○読み広げるコースごとに読書体験をさせ、交流活動を通して目的を持って読むことの楽しさに気付かせる。

【読んで考え生かす力を育てる視点】

○本の内容を要約するだけでなく、この本を選んだ理由や感想とともに読んだ本を紹介し合う活動を行い、読解力と表現力を育てる。

○自分の考えと友達の考えを比べながら互いに聞き合う活動を行い、共通点や相違点に気付き、自分の読みに生かす。

〈人権教育の視点〉

・命、家族愛、戦争をテーマにした本を読むことで家族を思いやる心や平和を願う心を育てる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○キーワードに気を付ける読み方を知り、場面を比べながら登場人物の様子や気持ちを読み取って、戦争時の親子を描いた作品に迫る。 ※目的に応じたいろいろな読み方があることを知って、自ら本を選び、読み広げる。
読むことへの関心・意欲・態度	○「一つの花」から受ける筆者の思いについて、友達と感じ方や考え方に違いがあることに気付いて自分の読みを見つめ直そうとしている。 ※友達の読み方を知って、進んで本を読もうとしている。
読む能力	○登場人物の様子と場面の様子を作品の中の大事な言葉に気を付けて想像して読むことができる。 ○題名に込められた作者の思いについて自分の考えを持ち、友達の考えと比べることができる。 ※目的に応じて本を選び、相手が読みたくなるような本の紹介ができる。

4 指導・評価の計画（13 時間取扱い 本時 13／13 時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 ※言語活動とその留意点	評価項目（方法）
1	1	新出漢字 難語句調べ	全文をグループごとに分担させて、効率的に調べる。	【言語事項】 新出漢字の読み方や書き方を理解している。難しい言葉についても辞典で調べている。 (ワークシート・発表)
	2	初発の感想を書く。自分の読みのめあてを立てる。	心に残った言葉や場面を中心に考えさせる。	【関心・意欲・態度】 学習のめあてについて話し合い、めあてを決めることができる。 (ワークシート・発表)
2	3 7	各場面の登場人物の気持ちを考える。	本文の登場人物の言葉、行動、周りの様子などにサイドラインを引き、そこに登場人物の心情、考え、行動のわけを書き込ませる。	【読む】 父親や母親のゆみ子に対する気持ちを読み取ることができる。 (ワークシート・発表)
	8	「一つの花」という題名について話し合う。	「一つの花」に込められた父親の願いや思いを振り返らせ、「一つの花」の意味するものを戦争と関連付けながら考えさせる。	【読む】 「一つの花」には父親の家族に対する思いがこもっており、それがゆみ子とお母さんを支えてきたということを書きすることができる。 (ワークシート・発表)
3	9	「一つの花」の本を基に、読み広げるコースを決める。	教師が各コースにつながるブックトークを行い、読み広げるときの視点に気付かせる。	【関心・意欲・態度】 ブックトークを聞いて、興味を持ったコースを選ぼうとしている。 (ワークシート・観察)
	10	自分の決めたコースの中から、読みたい本を選んで読む。	児童の実態に合ったテーマや今西祐行の作品を用意し、じっくりと読む時間を与える。	【読む】 たくさんの中から自分のテーマにあった本を選び、紹介したい本を説明するのに必要な情報を記録しながら読み進めることができる。 (ワークシート・観察)
	11 12	特に心に残った本を中心に紹介文を書く。 下書き→清書	前時までに集めた読書記録を基に、紹介する本を選ばせ、これを紹介するための原稿をワークシートに沿って書かせる。	【読む】 粗筋と感想、コース別読書で発見したことなどを紹介文に書くことができる。 (ワークシート・観察)
	13 本時	読書交流会を開く。	1冊の本からテーマ性を持って読むことで、読書の幅が広がることに気付かせる。	【関心・意欲・態度】 友達の発表を基に、作者やテーマなど自分の目的に沿って読書をしようとしている。 (ワークシート・発表) 【読む】 相手が読みたくなるような本の紹介ができる。 (観察・発表)

5 本時の学習

- (1) 目標 ○相手が読みたくなるような本の紹介ができる。
○読書の交流会を通して読書の広げ方を学び、読書への意欲を高めることができる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底 能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 2分 展開 20分	1 本時の課題を確認する。 【一斉】	徹 底	T1：自分が読んだコースの本について読書交流会をしましょう。	○「一つの花」から読みを広げる活動であることを押さえる。	「一つの花」の本
	読書交流会を開いて、次に読みたいコースを決めよう。				
	2 交流会をする。 (1)本の紹介をする。 (各コース同時進行) 【一斉】 ・各コースを三つに分け、語り手と聞き手と交代しながら互いに聞き合う。 「今西祐行」コース 「戦争」コース 「命」コース 「家族愛」コース	能 動	T1：自分の選んだコースの本の紹介をしましょう。 C：みんなはどんな本を読んだのかな。 T2：友達はコース別読書をして、どんなことを感じたり発見したりしたでしょう。 T1：聞くときのポイントに沿って考えながら聞きましょう。	○聞き手のときは自分のコース以外の三つの中から興味のあるコースを二つ選択させる。 ○T1は「命」「家族愛」コース、T2は「今西」「戦争」コースの発表の様子を確認し評価する。 ○発表が早く終わったときは、感想を聞くようにさせる。 ※聞くときのポイント ・初めて知ったよ！ ・なるほど！	
			評価（読むこと） B：本を提示しながら相手が読みたくなるような本の紹介ができる。 A：本を提示したり、要約や引用した部分のページをめくって見せたりするなどして、効果的に本の紹介ができる。【観察】		
10分	(2)紹介文を聞いて、感想を発表する。 ・ペアトーク→全体 【一斉】	徹 底 能 動	T1：他のコースを聞いて、初めて知った、なるほどと思ったことはどんなことでしたか。 C：今西さんの本は悲しい出来事が起こっても最後は幸せになります。 C：命コースの本はほとんどが実際の話です。	○コースごとに気付きを簡潔に板書する。 ○気付きがあまり出ないときには、コース読みをした児童に発表させる。 ○共感的な態度で聞き、一人一人の感じ方を認められるような雰囲気作りをする。	
8分	3 読みたいコースを決める。 (1)学習シートに記入 【個人】 (2)発表 【一斉】	能 動	T1：コース別の発表を聞いて、これからどのコースにチャレンジしてみたいですか。	○T1は、活動(2)の感想を基に、さらに読みたくなるような言葉掛けをする。 ○T2は、書き進められない児童に助言する。	学 習 シ ー ト
			評価（関心・意欲・態度） B：読んでみたいテーマについてその理由を明らかにし、チャレンジしたいコースを選ぶことができる。【学習シート・発表】 A：自分の今までの知識や読書体験と比較しながら読んでみたいテーマについてその理由を明らかにし、コースを選ぶことができる。【学習シート】		
終末 5分	4 教師による本の読み広げ方についての体験談を聞く。	徹 底	T1T2：先生もこんな本の読み広げ方をしてとてもおもしろかったです。 T1：これからは1冊の本を基にいろいろな読み広げ方ができそうですね。	○T1T2の会話を通して、読書への意欲付けになるような具体例を挙げるようにする。	紹 介 す る 本